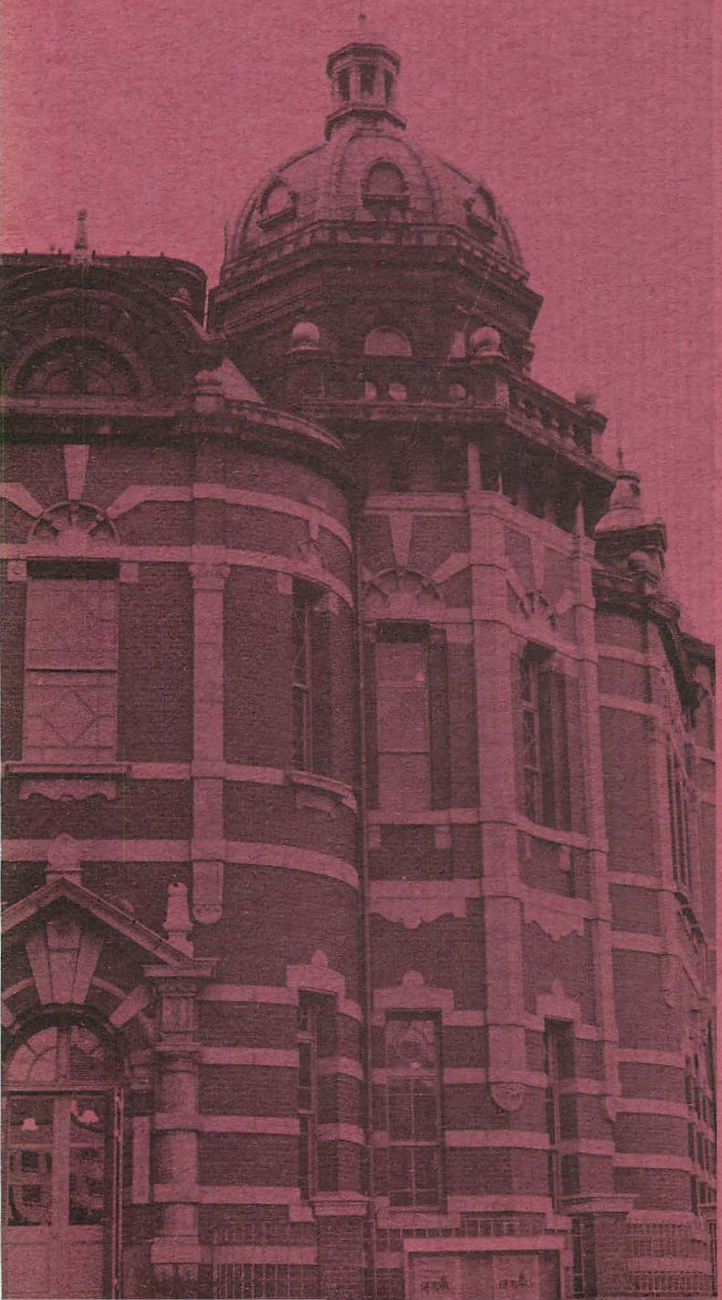
福岡市立歴史資料館

年報

NO. 4 （昭和50年度）



昭和51年刊

目　次

あいさつ……1
50年度業務概要……2
1．事業概要……2
2．施設管理業務の概要……3
資料館の活動……6
1．展観活動……6
(1) 常設展示……6
(2) 特設展示……7
(3) 企画展……9
2．収集資料紹介……11
(1) 購入資料……11
(2) 寄贈資料……14
(3) 修理資料……15
(4) 模型資料……16
(5) スライド……17
3．普及活動……18
(1) 福岡市立歴史資料館年報……18
(2) 二川相近書跡目録
——調査研究報告3——……18
(3) 絵葉書……18
(4) パンフレット……18
資料館協議会……19
委員名簿……19
開催状況……19
入館者の動向……20
購入図書……21
受贈交換図書……21
昭和50年度予算一覧……24
福岡市立歴史資料館条例……26
福岡市立歴史資料館
条例施行規則……27
機構と職員構成……28
資料館平面図……裏表紙裏側

あ　い　さ　つ

このたび福岡市立歴史資料館におきまして，年報第４号を刊行することになりました。本年報は50年度における特設展をはじめ各種の展示活動や諸般の館内業務および活動の歩みを記録するものでありますが，今後の運営の指針あるいは反省の材料ともなる性格をも，併せもつものであります。

福岡市における歴史的教養の中枢にあります当館の歩みも，牛歩のあゆみながら，些少の進歩があるように感ぜられます。これもひとえに，市民各位をはじめ研究指導者および関係諸機関各位の御厚情の賜物と常日頃深く感謝いたしておりますが，今後とも倍旧の御指導と御協力のほどをお願い申し上げます。

昭和51年５月１日

教育長　古　村　澄　一

福岡市立歴史資料館は発足以来，４年の日子をむかえようとしております。福岡市における市民の歴史的教養の場として，当館は50年度におきましてはじめて特設展「弥生時代の対外交渉展」を企画し，幸いにも好評の裡に無事終了いたしました。

年報４号は特別展をはじめ各種の館運営業務の経過内容を記録したもので，当館発行の研究報告書・絵はがきなどとともに，併せて研究施設の重要な刊行物の一つであります。

歴史の浅い小規模な当館の歩みも，市民各位をはじめ研究者各位の温かい御厚情と御指導によることが多く，常々感謝いたしておりますが，今後も個性豊かな資料館となす所存でございますので，さらにもましての御指導御援助をお願い申し上げます。

昭和51年５月１日

館　長　三　島　　格

50年度業務概要

事業概要

常設展 継続・新規・寄贈・寄託・借上資料による関係資料の入れ替えと補充（6室）

特設展 「弥生時代の対外交渉展―中国・朝鮮・南島―」 10月10日～11月25日 入場者5,489人

企画展 1 県無形文化財博多祇園山笠展 7月1日～15日

2 筑前藩窯古陶磁展 5月28日～8月31日

調査研究 資料保存整理等調査のため長崎・佐賀・熊本・京都・大阪各地を調査

普及活動 各種刊行物資料の頒布

1 歴史資料館年報No.3（49・4～50・3）

2 二川相近書跡目録―調査研究報告3号

3 絵はがき 歴史資料館全景・内行花文明光鏡・金隈埋葬址（模型）・しぎのはねがき 以上4枚1組

4 特設展・企画展の目録パンフレット作製

資料購入 以下の考古・書跡・民俗資料を購入した。

番号	種別	名称	数量	摘要
1	考古資料	縄文式土器	6	長崎県礫石原など出土 別項参照(以下同)
2		素環頭太刀	1	西区丸尾台出土
3	書跡	青柳種信関係資料	381	考古・書状・写本などの自筆資料
4	民俗資料	田楽面	2	伝壱岐神社蔵

資料復元と補強

1 西区白塔出土の人面付銅戈の固定保存展示ケース製作

2 野村望東尼書跡（姫島獄中図および書簡）の巻子本製作（10巻のうち5巻製作）

3 朝鮮鐘拓本の裏打ち 全紙6枚

模型の製作 下記の模型を製作した。

1 田島京ノ隈遺跡第1号経塚の断面（縮尺1：3）

2 片江古墳群第6・7・8号墳（縮尺1：50）

スライドの製作 マルチスクリーンディスプレイ装置用として，下記のスライドを製作した

1 四箇遺跡（16コマ）

2 広石古墳群（15コマ）

3　筑前の刀（20コマ）

4　筑前古陶磁（21コマ）

5　仙厓和尚（17コマ）

施設管理業務の概要

1．施設・設備の整備

(1) 修　理

年　月　日

50．4．30　電子複写機分解補修　1式　大西商事㈱

7．4　温水循環ポンプ補修　1式　共栄機工商会

7．15　タイプライターリボン送り調整補修　1台　日本タイプライター㈱福岡支店

7．18　資料整理棚両開戸取替え補修　9枚　㈱板谷建設

9．18　ペンキ塗装補修（地階天井，1・2階階段部腰壁40㎡，通用門扉および袖壁22㎡，クーリングタワー鉄製据付台・支柱および図書資料庫階段60㎡，ガス燈ポール3本，煙突1式）　㈱保坂塗装店

10．23　ガス湯沸器ボールタップパッキン取替え補修　1台　細山熱器㈱福岡営業所

51．2．4　自動火災報知設備イオン化式感知器取替え補修　1個　日本信号㈱九州営業所

2．4　電子複写機ペーパー作動スウイッチ取替え，自動給紙・写り不良補修　1式　大西商事㈱

2．5　収蔵庫パン型加湿器1台，Vベルト6本取替え補修　九州新菱冷熱㈱

2．6　警備員室冷暖房設備送風機用モーター取替え補修　1台　九州新菱冷熱㈱

2．20　警備員室雨漏り，バリカー補修　1式　㈱板谷建設

(2) 備　品

50．7．14　テープレコーダー　1台

スライドプロジェクター（キャリングケース付）　1台

7．16　テープコンタクター　1個

7．16　スクリーン（脚付携帯用）　1本

8．21　ビームコンパス　1個

8．21　比例コンパス　1個

8．29　卓上計算機（アダプター付）　1台

10．7　耐火書庫　1台

51．3．4　自動選別硬貨釣銭器　1台

(3) 借　上

50．4．1
～51．3．31　洋物植木鉢（玄関ロビー，展示室，階段室，館長室，事務室）　延192鉢
㈱中村園芸場

50．4．1
～51．3．31　資料収集用自動車　延260台　西ビルタクシー㈱

2．施設運営業務の委託

50．4．1
～51．3．31　受付応接業務，展示室警視業務，空調・冷・暖房機操作など保守業務，清掃業務，夜間警備業務　㈱シンコー

50．5．16
～5．27　企画展「筑前藩窯古陶磁」の説明パネル，題簽などの展示用品製作業務
㈱ケンラン社

50．6．21
～6．29　企画展「福岡県指定無形文化財博多祇園山笠」の説明パネル，題簽などの展示用品製作業務　㈱ケンラン社

50．9．15
～10．7
11．26
～12．10　特設展「弥生時代の対外交渉ー中国・朝鮮・南島」の出陳資料輸送およびその付帯業務（佐賀，京都，東京）　日本通運㈱九州支店

50．9．17
～11．25　特設展「弥生時代の対外交渉ー中国，朝鮮，南島」開催ポスターの掲示業務
㈱電通九州支社

50．9．25
～10．8　特設展「弥生時代の対外交渉ー中国，朝鮮，南島」の説明・図表・地図パネル・題簽などの製作および入場券仮設売場取付，撤去などの施工業務　㈱ケンラン社

3．設備保守点検業務の委託

50．4．1
～51．3．31　自家用電気工作物設備　財団法人九州電気保安協会

50．4．1
～51．3．31　構内交換電話および付属設備　富士通興業㈱九州通信営業所

50．4．1
～51．3．31　自動火災報知設備　日本信号㈱九州営業所

50. 4. 1
～51. 3. 31　収蔵庫用パッケージ型空気調和設備　九州新菱冷熱㈱

50. 4. 1
～51. 3. 31　展示室，事務室用空調自動制御設備　山武計装㈱福岡営業所

50. 4. 1
～51. 3. 31　冷房設備　九州日立冷機㈱

50. 11. 1
～51. 3. 31　暖房設備　㈱巴商会福岡営業所

50. 4. 1
～51. 3. 31　非常用放送設備　㈱スタンレー

4．施設職員の研修

名　称	期　日	会　場	参加者
九州博物館協議会総会	50. 5.14～16	別府市杉の井ホテル	三島
施設管理運営および資料調査	6.24～26	長崎県立美術博物館 佐賀県立博物館 熊本県立博物館	八尾，後藤
冷凍三種講習会	9. 3～ 7	福岡大学平和台学舎	西村
九州博物館協議会学芸員，事務職員研修会	10.21～22	佐賀県立博物館	八尾
第23回日本博物館協会全国大会および施設管理運営調査	10.26～31	東京国立博物館 大倉集古館	八尾
施設管理運営調査	51. 3.11～14	神奈川県立博物館 横須賀市立博物館	八尾
資料保存，整理，公開展示調査	3.22～25	京都国立博物館 京都大学 大阪市立博物館	後藤
施設管理運営および資料調査	3.29	北九州市立歴史博物館	三島

資料館の活動

1．展観活動

(1) 常設展示

福岡市と周辺で出土した考古資料を主にして，古代から中世までの郷土史と海外文化交流を展示する。

第1展示室

先土器時代・縄文時代・弥生時代を展示する。先土器時代は福岡市諸岡や朝倉地方のナイフ形石器・細石器を中心とする。縄文時代は市内の元岡・飛櫛貝塚，その他県内や宮崎県・熊本県の資料（岩偶，垂飾品，玉，石斧，石鏃，釣針，土器片）などを展示。弥生時代は中国・朝鮮との交流を示す鏡，剣，矛，刀などの青銅器・鉄器，石庖丁・石斧・木製品などの生活・生産用具，鏃・石剣・石戈などの石製武器を配列する。

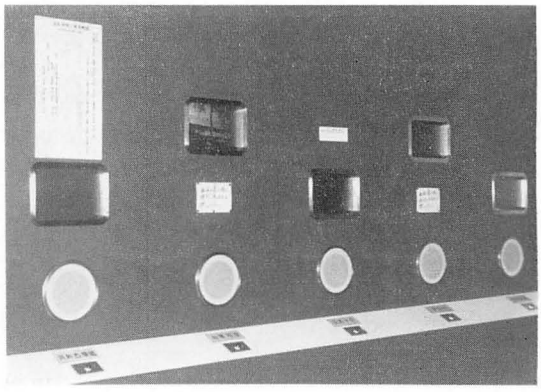
第2展示室

縄文時代～弥生時代の土器を編年順にならべ，土器の変遷を示す。また諸岡遺跡出土の朝鮮系無文土器（弥生時代前期末）を展示。

第3展示室

弥生時代の代表的墓地である金隈遺跡，宮の前遺跡の模型により，弥生時代の墓制の変遷を示す。また志賀島出土金印（模造品）を展示。石斧の専業的製作址

第 2 展示室



第 5 展示室

第 6 展示室

として著名な今山遺跡出土の未成石斧を製作工程順に並べ，立岩遺跡の石庖丁についても製作工程を原石から作った模造品により示す。

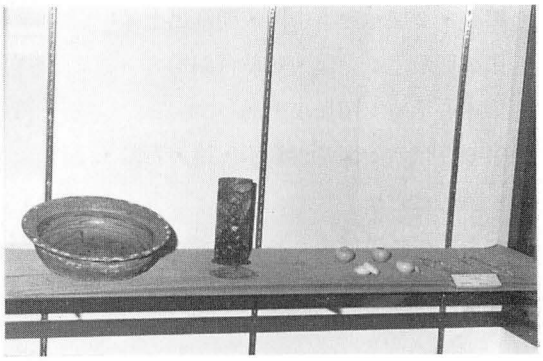
第 6 展 示 室

第 4 展示室

貝原益軒，亀井南冥，青柳種信，望東禅尼，中山平次郎ら郷土の先学の業績をパネル・文書等で紹介する。

第 5 展示室

5 台のスライド・スクリーンを設け，スライドとアナウンスで郷土の歴史を紹介。50年度末より四箇遺跡，広石古墳群，筑前刀，筑前古陶磁，仙厓和尚を紹介。



第 6 展 示 室

第 6 展示室

古墳時代から平安時代までの遺物を展示。古墳時代は老司古墳，五島山古墳，丸隈山古墳，下山門遺跡出土の鏡・玉・石製品等をならべ，奈良～平安時代では，海外交流を軸にして，瓦・青白磁器，経塚出土品等を展示。

(2) 特 設 展 示

50年度には，全館を使用して特設展を開催した。テーマは「弥生時代の対外交渉展――中国・朝鮮・南島――」で，10月10日～11月25日に実施した。

入場料は大人 100 円，大・高生50円，小・中生30円。『展示品解説目録』（B 5 版，20ページ）を無料配布した。入場者総数5,489名。

この特設展は，弥生時代に対外交渉の門戸であった北部九州地方が，朝鮮・中国・南島との間に行なった対外交渉のあり方と，交渉相手の朝鮮・中国・南島の文化を出土品によって示そうとするものであった。

北部九州地方は，弥生文化がもっとも早く成立した地域であり，弥生文化の成立当初から多くの文物がもたらされた。舶載の鏡・銅利器等ばかりでなく，日常の生産・生活用具たる石器類などその祖型が中国や朝鮮に求められるものが少くない。文物の流入は弥生時代の全期間を通じて認められるが，細かにみれば時期によって種類に差のあることがわかる。これらによっ

て，弥生社会の展開が，朝鮮・中国・南島諸地域の社会の変化と深い関係のあったこと，これらの文物をもたらした人間の交通がそれぞれの社会の動向と切りはなせないことが想定できる。また弥生社会に受け入れられた文物が，本来の意義・機能を失い，弥生社会独自の意味をもつに至り，独自の形態変化をたどったことはよくしられている。

展示品は，福岡市教育委員会や本館所蔵品，地元の各機関・団体・個人所蔵品から選ぶとともに，東京・京都の両国立博物館，東京大学，京都大学，文化庁などから借用した。展示品総数は約200点である。

これらを次のように展示した。

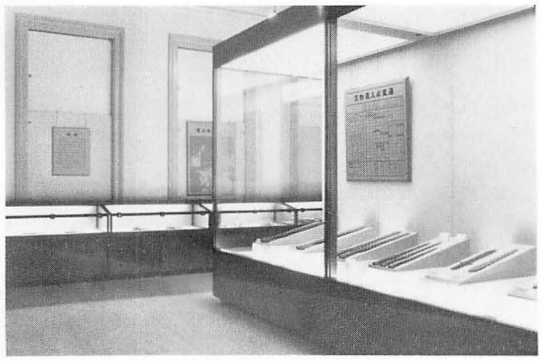
第1・2展示室：中国・朝鮮出土品

第3展示室：金印・舶載青銅器

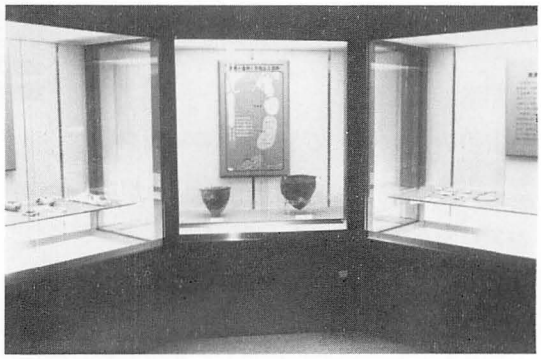
第4展示室：南島出土品

第6展示室：国産青銅器・鏡・石器・鉄器など。

なおこの特設展のためにパネル（説明・地図・図表）を19枚作製した。



特　設　展　(1)



特　設　展　(2)

特　設　展　(3)

主な展示品

桃氏剣（中国）　京都大学

銅　戈（中国，戦国時代）　京都大学，本館蔵

璧（中国，秦～漢）　東京国立博物館

遼寧式銅剣（中国）　京都大学，東京大学

細形銅剣（朝鮮）　東京国立博物館

石　剣（朝鮮）　東京国立博物館，　東京大学

石庖丁（朝鮮）　京都大学

灰陶土器各種（朝鮮，楽浪郡）　東京大学

昭明鏡（朝鮮，楽浪郡）　東京大学

漆耳杯（朝鮮，楽浪郡）　東京大学

鏡　奩（朝鮮，楽浪郡）　東京大学

有柄式細形銅剣（三雲，重要文化財）　聖福寺

中広銅剣（愛媛県古津呂）　文化庁

粟粒文方柱十字形剣把頭（対馬恵比須山）　長崎県立美術博物館

中細銅矛（熊本県今古閑）　京都国立博物館

貨　泉（京都府函石浜，壱岐原ノ辻，対馬シゲ

ノダン）　京都大学，文化庁
馬鐸（対馬黒木南鼻）　九州大学
蓋弓帽（下関市地蔵堂）　文化庁
銅矛鋳型（重要文化財）　熊野神社
鉄　戈（福岡県道場山）　福岡県教育委員会
多紐細文鏡（下関市梶栗浜）　東京国立博物館
方格規矩鏡（重要文化財，佐賀県桜馬場）
佐賀県立博物館
内行花文銘帯鏡（下関市地蔵堂）　文化庁
朝鮮系無文土器（原ノ辻）　京都大学
朝鮮系無文土器把手（佐賀県土生）
佐賀県教育委員会
巴形銅器（重要文化財　佐賀県桜馬場）
佐賀県立博物館
貝符（鹿児島県広田）　金関丈夫氏
貝符（沖縄県北原）　沖縄県教育委員会
明刀銭（沖縄県城嶽）　東京大学

(3) 企　画　展

博多祇園山笠展

全国に知られている本市の祇園山笠の行事期に合せて開催したもので，本館所蔵の「博多山笠屏風図絵」（紙本着色，初代三苫主清画）六曲一双を主とし，配するにつぎの諸資料をもってした。

1.　山笠櫛田入り絵馬（西区大字脇山横山神社蔵）

この絵馬は，文政13年（1830）の櫛田入りの場面をよく描破したもので，画面の右手の張幕に2本の槍で威儀を示している町奉行の席があり，境内に参入した山笠は，この席前に停止して「視いめでた」の祝い歌を唄っている。

境内は見物の老若男女で雑踏し，山笠を抑止する顔役めいた男の姿が見える。また大鳥居の下には数人の若武者による戦場馴らしの騎馬姿が見える。その他，この絵画の画面一ぱいに幕末ごろの博多山笠の盛況が描きこまれていて，まさにこの種絵馬の絶品ということができる。

博多祇園山笠展

2.　山笠手拭・山笠たすき

博多山笠は流（ながれ・町筋）を単位とする集合体で勇壮果敢な大衆行動を特色とする神事である。したがってその組織をかたくし，秩序をたもち，行動をただすため，みんなが諸役を一目で見分け見定めることができるようにと定められているのが「山笠手拭」と「山笠たすき」である。人びとは，これをおびた自他の流の諸役を尊重し協力することによって，その伝統を誇る神事の盛大かつ無事の完行を期することができる。展示の品は，今年とくに博多祇園山笠振興会から，その一揃いを本

館に寄贈されたものである。

3.　博多山笠記録

文化財保護委員会（現文化庁）から昭和39年に委嘱された博多山笠行事の実態調査結果を刊行したのが本書である。「博多津年令階梯制」（筑紫豊）・「博多山笠年代記」（三宅酒壺洞）の外に，山笠屏風以下多数の写真を収めており，行事に関する資料の集大成で，本文101頁，白黒・カラー写真70頁。博多祇園山笠振興会が昭和50年に出版したものである。

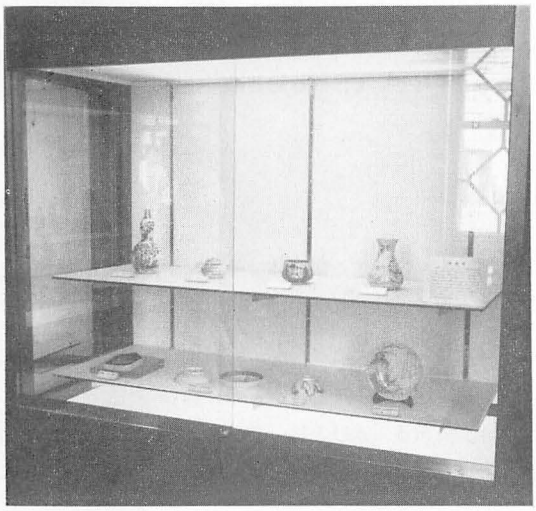
なお，この展示については，横山神社の石津新四郎宮司・馬男木常雄氏ほか総代一同，博多祇園山笠振興会井上吉左衛門会長・中村茂副会長，博多恵比須流吉田衛司・佐伯利助両委員等の協力をえた。

筑前藩窯古陶磁展

筑前52万石黒田藩には，高取焼・須恵焼の藩窯があった。高取焼は藩祖黒田長政が，朝鮮の役で朝鮮からつれ帰った陶工八山（はちざん）（日本名高取八蔵重貞，70人扶持の士分に列せらる）に命じて，鞍手郡永満寺宅間（現在直方市）に築窯して制作させたのが始まりで，窯はその後国内各地を転々と移り，明治維新まで皿山役所によって焼きつづけた最後の窯が早良郡麁原村抱上ノ山（現在福岡市西区西新町）の高取焼である。

須恵焼は安永年中（1772～1780），第7代治之が柏屋郡須恵村に，朝倉郡小石原村の廃窯中野焼を復興開窯させたのが始まりで，まもなく廃窯，嘉承・安政年間，第11代長溥によって再興，皿山役所が開設されて諸国に移出する計画があったが，明治維新によって廃窯された。

このような経歴をもった筑前古陶磁について，市内在住の愛陶家である三宅酒壺洞・奥村武両氏の家宝のうち茶碗・茶入・花瓶・置物等の秀作佳品20数点を選択して展示し，折から来福中の旧藩主家の当主黒田長礼氏・高取焼本家小石川原の高取静山氏をはじめ，多くの愛陶家に感銘を与えるところが大きかった。



筑前藩窯古陶磁展

2．　収集資料紹介

50年度の購入資料，寄贈資料，修理資料，模型資料，スライドは下記のとおりである。

(1) 購入資料

1　縄文土器　6点

縄文時代後期・晩期の深鉢形土器で，長崎県南高来郡礫石原遺跡，筏遺跡，山ノ寺遺跡出土各2点，計6点

山ノ寺遺跡出土　2点

甕棺墓に用いられた深鉢形土器である。高さ約41㎝・口径35～36㎝，高さ47㎝・口径41～43㎝。縄文晩期。

礫石原遺跡出土　2点

1点は復元高37㎝，口径33～34㎝の深鉢形土器。縄文時代後期。1点は高さ約34㎝，口径約30㎝の晩期深鉢形土器。

筏遺跡出土　2点

1点は高さ約26㎝，口径約28㎝。もう1点は口縁部～肩部の小片。いずれも後期。

山ノ寺遺跡出土縄文土器

2　素環頭大刀　1点

福岡市西区大字堤字原の前丸尾台遺跡。弥生時代甕棺墓の副葬品。全長44.5㎝。
〔参考文献〕中原志外顕，石井忠，下條信行（1970）「丸尾台遺跡報告」『宝台遺跡』（日本住宅公団）付録

3　田楽面　2点

翁と猿の面各1面。西区下山門の壱岐神社蔵と伝える。鎌倉～室町時代とみられ，鎌倉時代の可能性もある。

田　　楽　　面

4　青柳種信関係資料　381点

種信は明和3年（1766）2月，福岡藩の足軽青柳勝種の子として城下の地行に生れた。初め種麿といい，通称を勝次といったが，後に号を柳園と称した。若くして藩儒井上周徳の学僕となって苦学し，田尻梅翁の弟子となって国学に志し，寛政元年（1789）本居宣長の弟子となり，爾来学識大いに進み，士班に列せられて右筆役となった。伊能忠敬の幕命による陸地測量に助勢して，大いにその人となりを認められた。博多櫛田神社に櫛田文庫が設けられ，糸島桜井神社に桜井文庫が設けられたときは，その実現に尽力するところがあった。筑前における国学の棟梁的存在となり，門下に伊藤常足・吉村千春・藤田正兼・岡崎勝海等を輩出した。

著書に『宗像宮略記』・『香椎廟宮記』・『筑前国続風土記拾遺』等があり，文政5年怡土郡三雲村鑓溝から出土した考古学的諸資料についての報告・考証である『柳園古器略考』は学界に著聞している。またその足軽時代に宗像の沖島に島番として渡島勤番したときの『沖ノ島防人日記』も世に知られている。

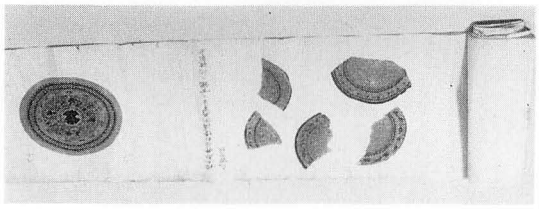
天保6年（1835）12月17日70才で没した。墓は麁原の顕乗寺にある。

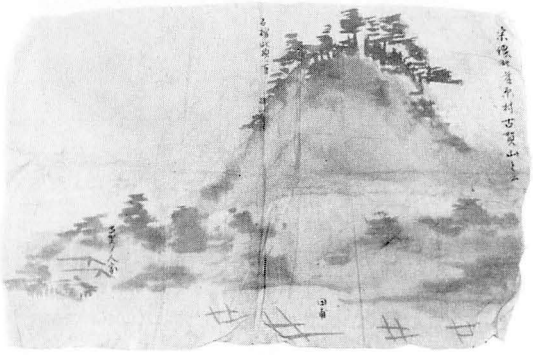
今回，本館に入手した関係資料は，種信の孫女の婚家である西新町の山崎家に保存伝来したものの一部で，そのうちもっとも注目に値するものの第1は，大宰府都府楼遺跡の図面その他の筑前国内外の地図類である。補修を要するものが多いが，近畿諸国の細見図のごときは，種信が実地に歩を印して見聞をたしかにしたことを証するに足るもので，とくに大和国のそれには細密に朱筆をもって所要の注記を施している。

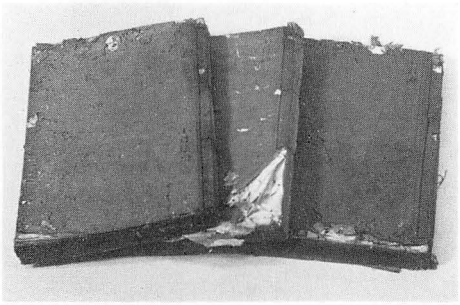
第2に種信の考古学的業績は，ほとんど『柳園古器略考』のみについて評価されている現況であるが，その略考を著述する前提と見るべき，諸方古器物の探訪と実測的写図の多くは，経筒・仮面・仏具・銅鏡・狛犬等多岐に及んでおり，略考著作の偶然でないことを知らしめる。しかし，これらの諸資料も，現状では継目がはぐれ，散逸のおそれがあるので，分類し順序をたて，整理し，保存の方法を考える必要がある。

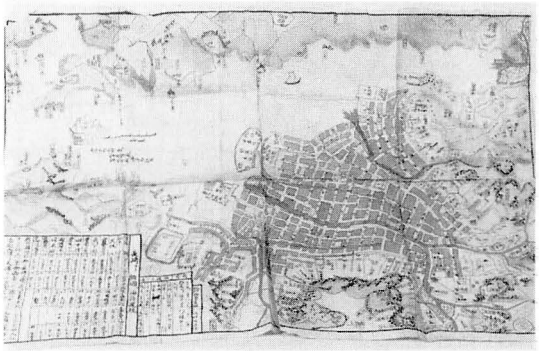
関係書簡の中で，とくに目をひくのは，本居大平から種信宛のものである。種信が宣長の門弟として，国学に励んだことはすでにのべたところであるが，その宣長の養子大平に就いても勉学するところがあった。大平の書簡は，宣長の発病から他界にいたるまでの経過を日記的に細書したもので，種信にとっては貴重な書面のひとつであったことがうかがいしられる。書簡はその他若干あるが，今後彼我の関係が明らかになるにつれて，あるいは新資料となるものがあるかもしれない。

今回の入手資料全般についていえることは，かって山崎家から福岡県立図書館に移されていて，過ぐる米軍大空襲で焼失した重要貴重資料に類するものは，ほとんど全くなく，多くはその周辺・断片のものであるが，しかし，これを整理し，吟味するとき，そこから種信のいまだ知られざる何ものかが発見できるという見込みを立てることは可能であろう。









青柳種信関係資料

種別点数表

考古図面類	94点	書　状	100
図　面	68	写　本	33
古文書	16	校　本	10
記　録	11	旅　行	5
有　職	6	絵　画	2
歌　文	1	系　図	1
目　録	1	雑　紙	33
		計	381点

(2) 寄贈資料

1．古瓦・須恵器　42点（福岡少年院寄贈）

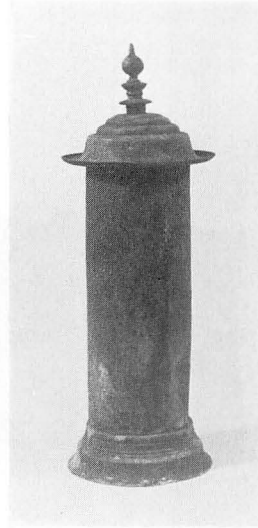
福岡市南区老司出土。軒丸瓦破片1，軒平瓦破片7，丸瓦破片5，平瓦破片26，須恵器蓋・坏各1，須恵器小片1。

瓦

須　恵　器

2．銅製経筒　1点（飯氏経筒保存会寄贈）

飯氏経筒保存会の旧蔵品で，市教育委員会文化課に寄贈されていたものを，今年度当館に保管転換した。1958年3月23日に，福岡市西区大字飯氏字松尾で出土したもの。高さ41㎝・胴部直径10㎝で，銅板製。



経　筒

3　竹崎季長「蒙古襲来絵詞」上下2巻（市教委文化課）

蒙古襲来700年にあたり，市教育委員会が宮内庁御物を4分の3に復刻頒布したものである。原版は同庁のカラーフィルムを借用，用紙は上質の和紙を用い，京都便利堂の手によって作製したもので，従来の諸模写に比べて学術的価値が高い。なお，付録として，蒙古襲来の史実に詳しい九州大学助教授川添昭二氏（現教授）の適確にして周到懇切な解説書が加えられている。

4　福岡市鳥瞰図・絵葉書（吉田初三郎筆，一揃　瀬川研一氏寄贈）

ともに京都祇園の観光社によって，国内諸処の観光的絵画をかいた初三郎の筆になるもので，前者は大戦前の本市とその周辺を克明に描破しており，裏面に市の概況と名所遊覧地の紹介があって史料的にも価値がある。後者は，みなと・博多小女郎・西公園・那珂川の夜景・元寇の5枚1組で，博多商工会議所発行。昭和初期作製の観光資料として，前者とともに珍重に値する。

5　福岡城武具櫓カラー写真　1葉（奥村武氏寄贈）

浜ノ町の黒田別邸に移築され，1945年6月19日の戦災で焼失した二重二階櫓と三重三階隅櫓のカラー写真である。

6　博多山笠手拭・たすき

企画展示「博多山笠展」の項参照。

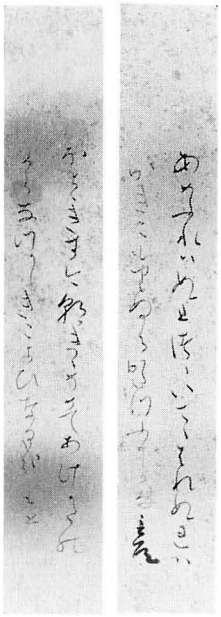
7　大隈言道，野村もとの和歌短冊各1葉（上原守人氏寄贈）

ともに幕末における福岡の歌人として知られている。言道は「天保の民」と称して，旧派の堂上的歌風を批判し，庶民的な平明清新の作歌を唱道した。もとは後の望東尼で女流勤王家として卓異の晩年を送った。

短冊の歌は

あめふればぬれつついでてはれぬれば
かきこもりぬるかたつぶりかな　言道

ほととぎす今朝ききそめてあけがたの
そらなつかしきこよひなる哉　もと



短　冊

(3)　修理資料

1．重要文化財朝鮮鐘拓本裏打

本市にある聖福寺・承天寺両刹および朝倉郡杷木町円清寺，唐津市恵日寺にある梵鐘は，ともに高麗時代の朝鮮鐘の逸品であって，飛天その他のデザインの優秀なことでしられている。

上記諸鐘の拓本は，北九州市八幡西区上津役早田在住の古賀龍次氏の収になり，同氏から本館に寄贈されたものであるが，貴重資料として保存上の必要から裏打ちを行ったものである。

2．野村望東尼書簡表装

望東尼が慶応元年冬から翌2年秋まで姫島在獄中，ひそかに福岡の野村家に発せられた書簡は，一括紙袋に束ね収められたままであったので，その資料価値の重要性と保存上の必要とから，これを巻子本仕立てとすることにし，1巻の長さおよそ6.5 m前後，10巻に収め表装することとした。

なお，その装着順序は，佐々木信綱編『野村望東尼全集』にある年月日順の整理に従い，彼此対照することによって読者の利用しやすいように配慮を加え，その複写本を巻子と一緒に保存することにした。

(4) 模型資料

1．片江古墳群第6・7・8号墳模型（縮尺50分の1）

片江古墳群は，福岡平野の西南部，油山南側山麓部に位置し（福岡市西区大字片江），油山山麓群集墳群のひとつである。この古墳群は早苗田支群（2～4号）と鳥越支群（6～8号）にわかれ，前者は早苗田古墳群C支群に，後者は鳥越古墳群B支群に相当する。2～8号墳は油山山麓東斜面（標高37～43m）に立地する。

これらの古墳は，片江地区区画整理事業の実施にともなう事前調査として，福岡市教育委員会文化課が1972年度に発掘調査した。

この古墳群のうち，第6～8号墳は南北に裾を接してならび，それぞれ両袖型横穴式石室をもち，墓道が残っている。墳丘のあり方や出土遺物から，6・8号墳は6世紀末葉に築造され，7号墳は7世紀前半代に6・8号間に築造され，6・7号墳は7世紀末頃まで，8号墳は8世紀代まで使用されたことがわかる。

後期群集墳のあり方をしる上で適当と考えたので，模型として展示に供することとした。

〔参考文献〕 福岡市教育委員会（1973）『片江古墳群発掘調査報告書』福岡市埋蔵文化財調査報告書第24集

2．京ノ隈遺跡第1号経塚断面模型（縮尺3分の1）

京ノ隈遺跡は福岡市西区田島字京ノ隈にあり，1974年に福岡市教育委員会文化課が調査した。前方後方墳と推定される古墳があり，内部主体は後方部の割竹形木杭である（前方部は土採りで失われたが、石棺があったと思われる）。この墳丘にはまた平安時代（12世紀）の経塚2基が設けられていた。このうち第1号経塚は石囲いの主体内に須恵器壺を入れ（まわりに炭をつめる）その中に青銅製経筒を安置する。須恵器壺には黄釉鉄花文大盤（中国東南部製）を蓋としてかぶせる。他に坩形合子等も収められていた。

この経塚の縦断面模型を作成し，一括出土品と共に展示することにした。

〔参考文献〕 福岡市教育委員会（1976）『京ノ隈遺跡発掘調査報告書』福岡市埋蔵文化財調査報告書（近刊）

(5) スライド

マルチスクリーン・ディスプレイ装置用として，下記5件を製作した。

四箇（シカ）遺跡（16コマ　5分15秒）

福岡市西区四箇の日本住宅公団造成地内の遺跡。沖積層にあり，縄文時代後期から古墳時代までの複合遺跡。縄文時代の包含層からは木製品，植物種子等が出土し，弥生時代層では杭列・溝等が検出された。また古墳時代の豊富な木製品（農具・建築材等）も出土している。

広石古墳群（15コマ　4分28秒）

福岡市西区広石の市立西陵高校建設地内の古墳群で，古墳6基を調査した。多量の副葬土器が出土している。

筑前の刀（20コマ　7分15秒）

中世以降の刀匠とその作品をつうじて，筑前刀の歴史を概説する。

筑前古陶磁（21コマ　8分52秒）

江戸時代の筑前陶磁器の歴史を，陶工・窯址・作品をつうじて説明する。

仙厓和尚（17コマ　6分2秒）

仙厓和尚は聖福寺第123代・第125代の住職で，聖福寺の再建に努力し，また書画によって大衆の教化に努めた。和尚の人となり，生涯を，書画・建物などをとおして示すものである。

3　普及活動

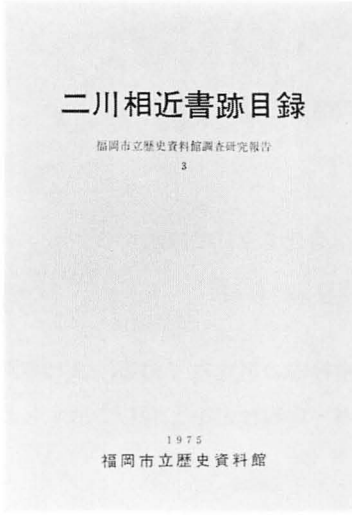
(1)　福岡市立歴史資料館年報No.3（昭和49年度）B５版20ページ　８月30日発行

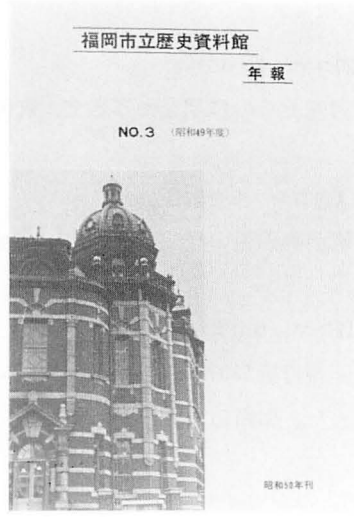
昭和49年度資料館活動の報告

(2)　二川相近書跡目録――調査研究報告３――

B５版14ページ，写真図版４ページ，１月発行

1973年度に二川力也氏から譲渡を受けた二川相近（1767～1836）の書跡213点の目録である。





(3)　絵葉書

４枚１組の絵葉書。入館者に配布。

歴史資料館全景　宝満尾遺跡出土内行花文明光鏡　金隈遺跡模型　二川相近「しぎのはねがき」

(4)　パンフレット

入館者に配布している展示内容についてのパンフレットの一部を改めた。

福岡市立歴史資料館協議会

委員名簿（五十音順）

氏　　名	郵便番号	現　　住　　所	役　　職　　名
井上　　忠	〒814	福岡市西区西新1丁目12—8	福岡大学人文学部教授
岡崎　　敬	〒813	福岡市東区香住ケ丘3丁目20—15	九州大学文学部教授
鏡山　　猛	〒816	福岡県春日市春日1533—28	九州歴史資料館館長
川添昭二	〒811-23	福岡県粕屋郡粕屋町仲原新町	九州大学文学部教授
児島敬三	〒812	福岡市東区箱崎3丁目9番51号	福岡県立高等学校社会科研究会歴史部会代表（修猷館高校教諭）
谷口鉄雄	〒818-01	福岡県筑紫郡太宰府町白川1—27	北九州市立美術館長
田村圓澄	〒811-32	福岡県宗像郡福間町 東福間団地A358	九州大学文学部教授
筑紫　　豊	〒812	福岡市東区箱崎1丁目20番23号	福岡県文化財保護審議会委員
平田　　寛	〒811-34	福岡県宗像郡宗像町日の里5丁目3の35	九州大学文学部助教授
平林　　豊	〒813	福岡市東区香住ケ丘6丁目25	福岡市立中学校社会科研究会歴史部長（大濠養護学校教頭）
藤井　　功	〒818-01	福岡県筑紫郡太宰府町 都府楼団地212	福岡県教育庁文化課課長
三宅安太郎	〒812	福岡市博多区大博町8—30	福岡県文化財専門委員
森　　貞次郎	〒812	福岡市東区箱松2丁目29番25号	九州産業大学教養部教授
安河内和好	〒814	福岡市西区飲倉163	福岡市立小学校社会科研究会代表（長尾小学校校長）
八尋和泉	〒812	福岡市東区箱崎6丁目12番15—520号	福岡県立九州歴史資料館学芸一課技術主査

開催状況

年　月　日

50. 7. 26　人事異動について報告。特設展開催の企画，重要文化財の受託出陳の促進，資料購入について諮問，協議

11. 14　資料収集，昭和51年度事業の企画について諮問，協議。特設展「弥生時代の対外交渉—中国，朝鮮，南島」の開催状況について報告

51. 2. 20　実物資料購入計画，実物資料鑑定評価委員の推薦について諮問，協議。資料の充実整備状況（マルチスクリーンディスプレイ装置用スライド，模型，野村望東尼流謫の地姫島（慶応元年当時志摩郡，現在糸島郡）からの書簡集巻子本などの製作）について報告

3. 31　昭和50年度実施事業の経過報告および昭和51年度事業計画，予算について説明，協議

入館者の動向（昭和50.4.1～昭和51.3.31）

表1　入館者統計

	個人入館者						団体入館者										総計
	一般		学生														
	男	女	小	中	高	大	一般		小学校		中学校		高等学校		大学		
							団体		団体		団体		団体		団体		
50年4月	482	212	103	82	69	172	4	106	1	15							1,241
5月	636	259	123	106	47	130	3	70	1	140	1	37			2	26	1,574
6月	559	237	120	56	19	132	8	218	5	292	1	6	2	25			1,664
7月	726	329	183	152	73	281	4	113	1	12	1	15	1	9			1,893
8月	561	330	296	291	108	242	1	10	1	36					1	8	1,882
9月	439	218	112	79	40	115	5	188	3	53	1	57		7	2	57	1,365
10月	特設展開催																2,918
11月																	2,837
12月	289	88	50	52	62	90	3	82	1	14	1	20					747
51年1月	368	148	123	66	30	66	3	161									962
2月	485	238	251	44	47	107	6	177		4							1,353
3月	480	185	165	103	82	230	5	135	2	19	1	18					1,417
総計	5,025	2,244	1,526	1,031	577	1,565	42	1,260	15	585	6	153	3	41	5	91	19,853

表2　年令別入館者数

	～15	16～30	31～50	51～64	65～	総計
50年4月	216	506	355	111	53	1,241
5月	407	519	431	152	65	1,574
6月	478	475	498	163	50	1,664
7月	374	723	527	184	85	1,893
8月	633	681	417	115	36	1,882
9月	280	494	330	134	127	1,365
10月	特設展開催					2,918
11月						2,837
12月	139	276	261	60	11	747
51年1月	191	314	326	99	32	962
2月	296	427	434	120	76	1,353
3月	314	536	372	123	72	1,417
総計	3,328	4,951	3,951	1,261	607	19,853

表3　職業別入館者数

	農漁林業	製造建設鉱業	卸小売サービス公務員会社員	無職	総計
50年4月	5	9	498	182	694
5月	5	17	680	193	895
6月	1	13	603	179	796
7月	4	16	710	325	1,055
8月	1	13	608	269	891
9月	3	12	417	225	657
10月	特設展開催				
11月					
12月	1	6	298	72	377
51年1月	2	6	385	123	516
2月	4	16	525	178	723
3月	6	11	472	176	665
総計	32	119	5,196	1,922	7,269

表4　特設展示入館者数（10月10日～11月25日，40日間）

個人				団体								その他	総計
一般	大高生	小中生	小計	一般		大高生		小中生		小計			
				団体		団体		団体		団体			
2,904	546	615	4,065	9	313	2	76	10	734	21	1,123	301	5,489

その他は，招待券利用者および身体障害教育施設児童・生徒無料利用者数。

昭和50年度購入図書

偉大的芸術伝統図録下	1
宋　書	8
長沙出土楚漆器図録	1
唐李賢墓壁画	1
東洋陶磁大観	3
晉　書	10
郷土博物館	1
中華人民共和国出土文物展覧展品選集	1
新明解国語辞典	1
博多津要録	1
魏　書	8
唐李重潤墓壁画	1
筑前国産物帳・筑前国産物絵図帳	2
書道大字典	2
新五代史	3
北　史	10
福岡城下町・博多・近隣古図（文化9年伊能忠敬実測）	1
新英和中辞典	1
韓国美術全集（2，9，11，14，15）	5
麦積山石窟	1
古銅鼓図録	1
福岡城及び福岡・博多古図集	7
漢　書	12
新唐書	20
新疆出土文物	1
漢代の美術	1
新和英中辞典	1

受贈交換図書雑誌（1975.4.1～1976.3.31）

大和考古資料目録3　奈良県立考古博物館
奈良国立文化財研究所年報（1974年度）　奈良国立文化財研究所
平城宮木簡　二　解説　奈良国立文化財研究所
京都市埋蔵文化財年次報告　1974—Ⅱ
　法勝寺跡（六勝寺の筆頭寺院）〔2部〕　京都市文化観光局文化財保護課
京都市埋蔵文化財年次報告　1974—Ⅲ
　中臣遺跡　1974　京都市文化観光局文化財保護課
京都市埋蔵文化財年次報告　1973—Ⅰ
　平安宮跡　京都市文化観光局文化財保護課
京都市埋蔵文化財年次報告　1973—Ⅱ
　史跡　西寺跡　鳥羽離宮跡　京都市文化観光局文化財保護課
栢杜（かやのもり）遺跡調査概報　1974〔2部〕　鳥羽離宮跡調査研究所
埋蔵文化財発掘調査概報　京都府教育委員会
昭和48年度滋賀県文化財調査年報　滋賀県教育委員会
坂口遺跡発掘調査報告書　滋賀県教育委員会
滋賀県文化財調査報告書　第5冊　滋賀県教育委員会
ほ場整備事業にともなう文化財調査報告Ⅱ
　ほ場整備事業関係遺跡調査報告　滋賀県教育委員会
美園遺跡発掘調査報告
　—古代地方官衙跡—　滋賀県教育委員会
伊場遺跡第6・7次発掘調査概報　浜松市遺跡調査会
伊場遺跡（出土品の解説目録）浜松市教育委員会
四日市市埋蔵文化財調査報告10
　八幡塚古墳発掘調査報告　四日市市教育委員会
松山市文化財調査報告書Ⅶ
　埋蔵文化財発掘調査概報　松山市教育委員会
松山市埋蔵文化財調査報告書第6集
　かいなご・松ケ谷古墳　松山市教育委員会
倉敷考古館　解説　倉敷考古館
倉敷考古館研究集報　第11号　倉敷考古館
用木古墳群　岡山県山陽町教育委員会
萩市郷土博物館研究報告№1　萩市郷土博物館
下東遺跡，荻峠遺跡　山口県教育委員会
菊川町岸本遺跡　山口県教育委員会
上原遺跡発掘調査報告Ⅰ　山口県豊浦郡菊川町教育委員会
間古墳発掘調査報告　豊浦町教育委員会
高岡郡日高村資料調査報告書　高知県立郷土文化会館
安芸郡北川村資料調査報告書

高知県立郷土文化会館
北海道所蔵簿書件名目録・第2部
開拓使公文録・東京出張所原本の部
（その6）　北海道総務部行政資料課
北海道所蔵公文書件名目録4
北海道総務部行政資料課
旭川郷土博物館所蔵品目録　旭川郷土博物館
博物館だより　旭川郷土博物館
旭川郷土博物館月報〔2部〕　旭川郷土博物館
野鳥　福島潟　新潟県豊栄市立博物館
桃生城跡Ⅰ　宮城県多賀城跡調査研究所
宮城県文化財発掘調査略報（48・49年度分）
宮城県教育委員会
土平遺跡発掘調査概報　宮城県教育委員会
宮城県文化財調査報告書　第38集
宮前遺跡　宮城県教育委員会
宮城県文化財調査報告書　第42集
宮城県文化財発掘調査略報（50年度分）
宮城県教育委員会
史跡出雲国府跡環境整備報告書
島根県教育委員会
出雲国分尼寺第2次発掘調査概報1974
島根県教育委員会
島根県埋蔵文化財調査報告書　第5集
島根県教育委員会
むかしの旅（生活の中の道具）
静岡市立登呂博物館
駿河宮川遺跡　静岡市教育委員会
加茂遺跡　姫路市教育委員会
江ノ浦横穴群・古墳群測量調査報告書
沼津市教育委員会
大畑貝塚調査報告　福島県いわき市教育委員会
豊田市埋蔵文化財調査集報　第二集
縄文Ⅰ　豊田市教育委員会
上野市文化財調査概報3　猪田経塚
上野市教育委員会
名古屋市博物館（仮称）準備年報№2（49年度）
名古屋市教育委員会
長岡博男文庫蔵書目録　石川県立郷土資料館
生活用具の歴史　神戸市立考古館
尼崎の民俗資料　尼崎市教育委員会
大阪市立博物館研究紀要第7冊
大阪市立博物館
大阪市立博物館館報　大阪市立博物館
資料館報　№6　埼玉県立さきたま資料館
文化資料館資料目録　古文書の部　第二集
神奈川県立文化資料館
浦和市立郷土博物館研究調査報告書　第二集
浦和市立郷土博物館
浦和市立郷土博物館々報　第5号
浦和市立郷土博物館
房総のあけぼの　市立市川博物館
市立市川博物館年報（昭和49年度）
市立市川博物館
遺跡シリーズ1　堀之内貝塚のはなし
市立市川博物館
遺跡シリーズ2　下総国分寺址のはなし
市立市川博物館
美濃輪台遺跡　市川市教育委員会
国東のお地蔵さん　国東町歴史民俗資料館
羽山台遺跡　大牟田市教育委員会
朝倉町町史資料第六集　古林家文書〔3部〕
朝倉町教育委員会
佐賀県立博物館調査研究書第2集
坂の下遺跡の研究　佐賀県立博物館
長崎県文化財調査報告書第20集
対馬の遺跡　長崎県教育委員会
長崎県立美術博物館年報　49年度
長崎県立美術博物館
博物館あんない　沖縄県立博物館
中隈山古墳群〔2部〕　久留米市教育委員会
久留米市文化財調査報告書第9集
茶臼山・東光寺跡　久留米市教育委員会
百人委員会埋蔵文化財報告第5集
口之津貝塚及び口之津烽火遺跡調査報告
百人委員会
三輪町文化財調査報告書第2集
栗田遺跡（D・E地区）　三輪町教育委員会
菅原道真と太宰府天満宮　上・下
太宰府天満宮文化研究所
九州歴史資料館研究論集1〔2部〕
九州歴史資料館
朝倉橘廣庭宮跡伝承地第2次発掘調査報告
九州歴史資料館
昭和49年度発掘調査概要　太宰府史跡
九州歴史資料館
馬場山遺跡　北九州市埋蔵文化財調査会
図録　新羅の古瓦塼　北九州市立歴史博物館
津田文書編年目録　北九州市立歴史博物館
豊前修験道・英彦山展（第1回特別展録）

北九州市立歴史博物館
—西アジアとシルク・ロード—
オリエント美術展　北九州市立美術館
福岡城南丸多聞櫓修理工事報告書　福岡市
板付周辺遺跡調査報告書2　福岡市教育委員会
山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告〔2部〕
福岡市教育委員会
福岡県文化会館所蔵
福岡県近世文書目録第4集　福岡県文化会館
—九州縦貫自動車道関係若宮町所在遺跡の
調査報告会資料—
くらてのむかしその3〔2部〕
福岡県教育委員会
井原・三雲遺跡発掘調査概報〔2部〕
福岡県教育委員会
山陽新幹線関係
埋蔵文化財調査概報　福岡県教育委員会
九州縦貫自動車道関係
埋蔵文化財調査報告〔2部〕
福岡県教育委員会
福岡南バイパス関係
埋蔵文化財調査報告　福岡県教育委員会
山陽新幹線関係
埋蔵文化財調査概報（49年度）
福岡県教育委員会
稲築公園内遺跡〔2部〕　稲築町教育委員会
稲元古墳群第1期調査報告　稲元古墳群調査団
ふるさとの自然と歴史
S.49.12　S.50.1～12　S.51.1,2,3
歴史と自然をまもる会
瀬戸口古墳群　田坂美代子氏
古文化財の科学　第19号　古文化財科学研究会
対馬風土記　第12号　対馬郷土研究会
対馬古文書目録　対馬郷土研究会
日本博物館協会総会資料　日本博物館協会
第23回全国博物館大会報告書　日本博物館協会
大阪市立自然史博物館特集　博物館研究
日本博物館協会
博物館研究　vol.10　№4.6　日本博物館協会
郷土の文学（資料集）Ⅰ　太宰府
福岡県高等学校国漢部会
郷土の文学（資料集）Ⅱ　筑後篇
福岡県高等学校国漢部会
創立五十周年記念論文集　九州大学文学部
原田氏年表　怡土戦國武将　中村浩理氏
宗教文化　筑紫　豊氏
博多東町，豊後屋永蔵萬歳楼（複写）筑紫　豊氏
妙薬除風散の本舗　安永・天明頃の巨商
豊後屋嘉兵衛（複写）　筑紫　豊氏
後漢金印略考（複写）　筑紫　豊氏
細川家縁起録（複写）　筑紫　豊氏
日本古代史の旅2　縄文・弥生　小学館
日本の美術44　弥生式土器　小学館
日本の美術2　縄文式土器　小学館
日本の美術44　弥生式土器　杉原荘介氏
明治大学文学部研究報告　考古学第五冊
北海道白滝服部台における細石器文化
杉原荘介氏
肥後中世の武士団とその遺産
元寇・南北朝浜の館展　熊本日日新聞社
旧山本郡の条里　久留米開発公社
百道清風　修猷館資料目録　修猷館
今津（今津小学校創立百周年記念誌）
今津小学校創立百周年記念会
邪馬台国の歴史　坂田　隆氏
図詳　ガッケン・エリア教科事典1
日本歴史　学習研究社
宝満山歴史散歩　森　弘子氏
郷土先賢詩書画集　緒方無元氏
日本史の世界　元の襲来　川添昭二氏
元寇七百年記念誌　勝本と蒙古襲来
元寇七百年記念事業推進委員会
博多山笠記録　博多祇園山笠振興会
朝倉町文化財報告書　第3集
朝倉町教育委員会
朝倉町文化財報告書　第4集
福岡教育大歴史研究部考古学班
津丸・久末古墳群報告書
福岡教育大歴史研究部考古学班
九州考古学の諸問題　福岡考古学研究会
日本食物史　—食生活の歴史—　三島　格氏

外パンフレット類　54冊

昭和50年度予算一覧

（歳入）

科目	金額	説明
使用料及び手数料	400,000円	特設展入場料収入
諸収入	3,000	私用電話通話料
計	403,000	

（歳出）

事業別	金額	説明
一般管理費	1,398,000円	歴史資料館の一般管理に要する経費
施設管理費	13,739,000	歴史資料館の施設管理及び委託に要する経費
常設展示費	6,360,000	複製品，パネル等の製作及び展示資料の借上等に要する経費
特設展示開催費	2,400,000	特設展示古代文化展―弥生時代の対外交渉展―開催に要する経費
調査研究費	1,440,000	購入・寄贈・寄託資料及び文化財資料記録の調査研究に要する経費
普及活動費	1,590,000	資料館運営の紹介，文化財保護思想の昂揚普及活動に要する経費
資料充実整備費	5,000,000	貴重な文化財の市外流出，散逸防止のための保存収集及び展示資料充実整備に要する経費
その他	35,000	博物館協会，博物館協議会負担金
計	31,962,000	

○一般管理費　1,398,000円（前年度　1,250,000円）

区分	金額	説明
報酬	226,000円	歴史資料館協議会委員
旅費	134,000	日本博物館大会，学芸員講習
印刷消耗品費	349,000	ＰＲ用刊行物，一般事務用品，新聞雑誌，消毒用薬品
食糧費	90,000	歴史資料館協議会，来客用，展示資料借用交渉
役務費	357,000	電話料，郵便料
委託料	40,000	掲示板用パネル製作
借損料	172,000	歴史資料館協議会会場借上料，植木借上料
備品購入費	30,000	図書
計	1,398,000	

○施設管理費　13,739,000円（前年度　11,653,000円）

区分	金額	説明
印刷消耗品費	54,000円	展示室電球，螢光管，スライド用ランプ，火災報知機ランプ，施設管理用消耗品
光熱水費	2,698,000	電気料，都市ガス，水道料，燃料
修繕料	400,000	展示ケースガラス，電気配線，照明灯，借用資料等修理
役務費	204,000	火災保険料，対人対物賠償責任保険料，借用資料損害補償保険料
委託料	10,383,000	運営管理委託，保守点検委託

○常設展示費　6,360,000円（前年度　5,530,000円）

区分	金額	説明
賃金	447,000円	複製品・パネル委託製作原図作成作業補助，資料復元補修作業補助
報償費	256,000	資料寄贈謝礼，複製品・パネル製作指導，資料復元補修指導
旅費	70,000	資料借上・寄贈・寄託交渉，複製品の検分
印刷消耗品費	664,000	原図作製用地図，ＤＰＥ，資料複製材料，館内案内パンフレット，こん包材料
食糧費	30,000	複製品・パネル製作指導会議用
役務費	100,000	案内状，パンフレット発送用
委託料	3,940,000	複製品，パネル，展示用具製作委託料
自動車借上料	238,000	借上・寄贈・寄託資料の運搬用
借損料	365,000	展示資料の借上，会議場借上
備品購入費	250,000	スライドプロジェクター，テープレコーダー，スクリーン，卓上計算機，耐火書庫
計	6,360,000	

○特設展示開催費　2,400,000円（新規計上）

区分	金額	説明
賃金	286,000円	ポスター・チラシ発送，資料展示・陳列・撤去作業補助，売札，場内監視
報償費	115,000	企画委員，陳列・撤去指導，原稿謝礼，講演講師謝礼，資料出陳謝礼
旅費	350,000	出陳資料の下交渉，集荷・返却立会，講師及び陳列・撤去指導委員招へい
印刷消耗品費	495,000	招待券，入場券，割引券，チラシ，ポスター，ＤＰＥ，文具
食糧費	38,000	企画，陳列・撤去指導委員会会議用
役務費	28,000	招待状，ポスター発送用
委託料	1,060,000	看板，パネル，説明カード製作，会場設営，ポスター掲示，資料こん包運搬
借損料	28,000	企画，陳列・撤去指導委員会，特別講演会場借上
計	2,400,000	

○調査研究費　1,440,000円（前年度　1,200,000円）

区分	金額	説明
賃金	395,000円	資料台帳の整理・作成補助，資料実測作業補助
報償費	60,000	技術指導の講師謝礼
旅費	270,000	館基調資料の調査，資料保管・展示技術指導の講師招へい，講師交渉
印刷消耗品費	245,000	ＤＰＥ，テキスト，調査用具，整理箱，台帳，製本材料，資料補強材料，フィルム
食糧費	10,000	技術指導の会議用
役務費	20,000	連絡用切手等
自動車借上料	80,000	調査資料運搬
借損料	10,000	技術指導の会議場借上
備品購入費	350,000	図書，製図器具
計	1,440,000	

○普及活動費　1,590,000円（前年度　1,270,000円）

区　　分	金　額	説　　明
報償費	60,000円	原稿謝礼
旅費	59,000	研究報告書作成資料調査
印刷消耗品費	1,437,000	年報，研究報告書，絵葉書，写真材料，製図用品，ＤＰＥ等
役務費	34,000	研究報告書・年報等発送用
計	1,590,000	

○資料充実整備費　5,000,000円（前年度　5,000,000円）

区　　分	金　額	説　　明
賃金	277,000円	資料復元・模型原図作成作業補助
報償費	100,000	各種文化財資料鑑定委員
旅費	23,000	資料復元・模型の検分，資料運搬
委託料	2,200,000	模型製作，資料の復元補強，スライド製作
自動車借上料	50,000	購入資料の運搬用
備品購入費	2,350,000	展示資料の購入
計	5,000,000	

○その他　35,000円（前年度　57,000円）

区　　分	金　額	説　　明
負担金補助及び交付金	35,000円	財団法人日本博物館協会負担金，九州博物館協議会負担金
計	35,000	

福岡市立歴史資料館条例（昭和47年10月23日 条例第74号）

（設置）

第1条　福岡市及びその周辺の歴史に関する資料（以下「資料」という。）の保存と活用を図り，もって市民文化の向上に資するため，福岡市立歴史資料館（以下「資料館」という。）を福岡市中央区天神一丁目に設置する。

（事業）

第2条　資料館は，次の各号に掲げる事業を行なう。

(1)　資料の収集，整理及び保存に関すること。

(2)　資料を市民に展示し，公開すること。

(3)　資料の専門的調査研究を行なうこと。

(4)　前各号に掲げるもののほか，資料館の設置の目的達成に必要なこと。

（職員）

第3条　資料館に館長その他必要な職員を置く。

（観覧料）

第4条　資料館に展示した資料の観覧料は，徴収しない。

2　前項の規定にかかわらず，資料館に特別の展示をしたときは，教育委員会は，その実費相当額の範囲内において観覧料を徴収することができる。

（入館の制限）

第5条　教育委員会は，次のいずれかに該当する者に対し入館を拒み，又は退去を命ずることが

できる。

(1) 資料館の管理上必要な指示又は指導に従わないもの

(2) 資料館の管理上支障があると認められるもの

（資料の貸出し）

第6条 教育，学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のために特に資料を利用しようとする者は，教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2 前項の貸出しは，資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行なうものとする。

（損害賠償）

第7条 資料の観覧者又は貸出しを受けた者がその責に帰すべき理由により資料館の建物若しくは施設又は資料を破損し，滅失し，又は汚損して本市に損害を与えたときは，これらを原状に復し，又はその損害を賠償しなければならない。

（協議会）

第8条 資料館に福岡市立歴史資料館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は，資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに，館長に意見を述べるものとする。

3 協議会の委員の定数は，20人以内とし，次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者

(2) 学識経験者

4 前項の委員の任期は，2年とする。ただし，補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

5 委員は，再任されることができる。

（委任）

第9条 この条例に定めるもののほか，資料館の管理に関し必要な事項は，教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は，昭和47年11月16日から施行する。

福岡市立歴史資料館条令施行規則 （昭和47年11月16日 教育委員会規則第14号）

（趣旨）

第1条 この規則は，福岡市立歴史資料館条例（昭和47年福岡市条例第47号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 福岡市立歴史資料館（以下「資料館」という。）の事務を行なうため，資料館に管理係を置く。

（職員）

第3条 資料館に館長，係長，吏員その他の職員を置く。

2 前項の職員のほか，特定事務を担当させるため，資料館に文化財主事を置くことが出来る。

3 館長，係長及び文化財主事は吏員のうちから命ずる。

4 館長及び係長は，上司の命を受けて資料館又は係の事務を掌理し，所属職員を指揮監督する。

5 文化財主事は，上司の命を受けて担当事務を処理する。

6 吏員その他の職員は，上司の命を受けて分担する事務を処理する。

（職務権限の代行）

第4条 館長に事故ある場合又は館長が欠けた場合において，特に事務取扱者を命じないときは，係長がその係に属する事務について館長の職務権限を代行して行なう。ただし，重要又は異例な事務については，社会教育部長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により館長の職務権限を代理して行なう者がないときは，社会教育部長が行なう。

（開館時間）

第5条 資料館の開館時間は，午前9時から午後5時までとする。ただし，教育長は，必要があると認める場合には，これを変更することができる。

（休館日）

第6条 資料館の休館日は，次のとおりとする。ただし，教育長は必要と認める場合には，これ

を変更し，又は臨時に休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 12月28日から翌年1月3日まで

（入館者の心得）

第7条 資料館に入館する者は，次の事項を守らなければならない。

(1) 所定の場所以外の場所で飲食し，喫煙し又は火気を使用しないこと。

(2) 騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。

(3) 危険物又は動物を持ち込まないこと。

(4) 職員が行なう管理上必要な指示又は指導に従うこと。

（貸出）

第8条 条例第6条第1項の規定による資料の貸出を受けようとする者は，福岡市立歴史資料館資料貸出許可申請書（様式第1号）を教育長に提出しなければならない。

2 条例第6条第1項の規定による資料の貸出の許可は，資料貸出許可書（様式第2号）を交付して行なう。

（寄贈等）

第9条 資料館に資料を寄贈し又は寄託しようとする者は，教育委員会に申し出なければならない。

2 寄託を受けた資料の貸出しは，寄託者の承認を得て行なうものとする。

（委　任）

第10条 この規則の施行に関し，必要な事項は，教育長が定める。

附　則

この規則は，公布の日から施行する。

機構と職員の構成

(1) **機　構**

教育委員会―教育委員会事務局―社会教育部（教育次長）――（主幹）

歴史資料館

諮問機関
歴史資料館協議会（15名）

(2) **職員構成**

館長――管理係長――事務吏員　1名（経理庶務担当）

―文化財主事

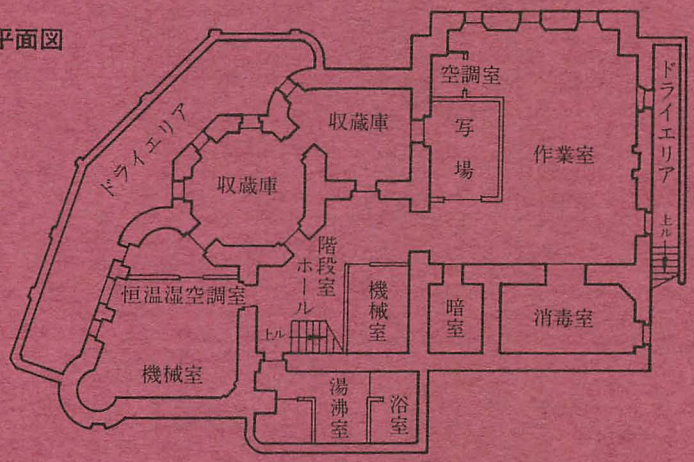
業者委託――警備員　3名
受付員　2名
機械運転員　1名
清掃員　1名

館員名簿

職名	氏名	摘要
館長	三島　格	技術吏員（文化財専門職）
管理係長	石橋　博	事務吏員
文化財主事	後藤　直	技術吏員（学芸担当〈考古学〉）
事務主任	八尾　敏則	事務吏員（経理庶務担当）
事務補助員	藤村　早智子	臨時職員
学芸補助員	柳沢　チサヨ	臨時職員
警備員（昼間）	村上　一	業務委託会社出向職員
機械設備運転保守技術員	西村　功	〃
受付員	古賀　幸子	〃
受付員	原田　久子	〃
警備員（夜間）	木本　鉄夫	〃
警備員（夜間）	池田　清治	〃
清掃員	畠添　敏子	〃

資料館平面図

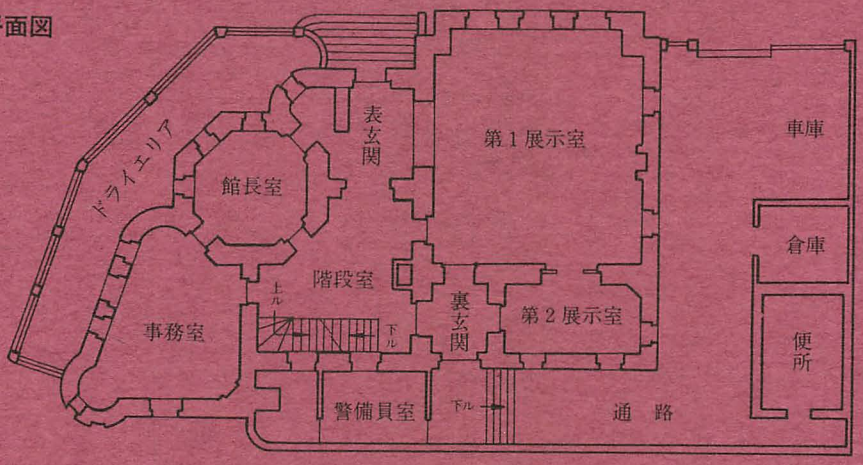
地階平面図



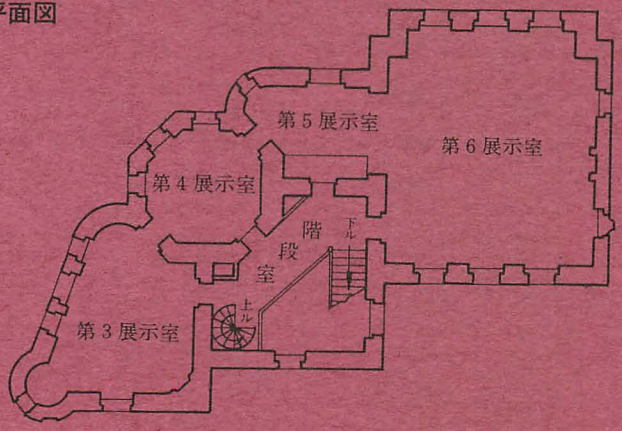
面積

地　階	218.8m²
1階	212.9m²
2　階	171.6m²
3　階	25.5m²
倉　庫	11.6m²
便　所	14.5m²
図書室	16.6m²

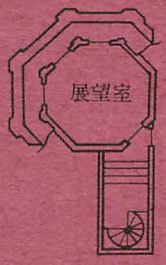
1階平面図



2階平面図



3階平面図



FUKUOKA CITY HISTORICAL MUSEUM

Annual report No. 4

1976

●入場料　無料
●休館日　月曜
12月28日～31日
1月1日～3日
●開館時間　午前9時～5時（入館4時30分）
●場所　福岡市中央区天神1丁目15番30号
TEL 741－5488

福岡市立歴史資料館年報
No. 4（昭和50年度）
昭和51年5月30日発行
福岡市立歴史資料館
印刷　㈱川島弘文社